



① ふくろう先生の なにがおきたの 大しんさい

この紙芝居は、

東日本大震災の時、どんなことが
おこったのかについてのお話だよ。

*子どもと対話

みんなは、東日本大震災の時は、
まだ生まれてなかったよね。

何があったのかお家の人に聞いたことはあるかな？
テレビで見たことはあるかな？

どんなことがおこったのか、
一緒に見てみよう。

みんなで声を出して

一緒に題名を読んでみよう！

せーの、

「ふくろう先生の

なにがおきたの 大しんさい」

抜く



朝の会のことです。



「先生っ!!この前、地震がありましたけど、その時、お父さんが2011年に起きた地震のほうがすごかったと言っていたんですが、どんなことがあったんですか？」



「そうじゃな、2011年の3月11日のことじゃ。皆が生まれる前におきたことだからのう・・・知らなくて当然じゃ。そうだ。皆、うちの人に地震のことを聞いてくるというのはどうじゃ。」



「さんせーい」
「ききたーい」

森のみんなは、地震についてお家の人に聞いてくることにしました。

抜く



次の日、森のみんなは聞いてきたことを話しました。



「みんな、どんな話を聞いてきたんじや」



「ぼくは、すごい揺れで、
テレビや冷蔵庫が倒れたり、
何かにつかまらないと
立っていられなかったって聞きました。
そのあとも、何度も何度も地震がおきて、
家族に電話しようとしたけど、
全然繋がらなかったそうです」

抜く



「わたしは、地震のあと、

海の近くでは大きな津波が来て、家や車が流されて
たくさんの方が被害にあったって聞きました。

あるところでは、10メートルぐらいの
高さだったんだって。10メートルっていうと
学校の3階ぐらいの高さだね。」

*津波は、地震で盛りあがった海の水が、
大きな波となって押し寄せることを言うんだよ。

抜く



「そして、原子力発電所も海の近くにあるから、津波がきて、事故がおきたんだって。そのせいで放射性物質が外に飛び出ちゃったんだよ」

*原子力発電所は、電気を作る工場のひとつです。放射性物質から出るエネルギーを使って電気をつくります。

抜く

※放射性物質については、紙芝居「ほっしやせんってどんなもの？」で勉強するよ。



「ぼくが聞いたのは、事故がおこったせいで、
急いで避難をすることになったんだって。
すぐに帰れると思ったから、
荷物や飼っていた生き物たちを家においてきちちゃって
すごく心配だったんだって。」



そして、住んでいた場所から、
遠く離れた体育館や学校で、不便な生活が
続いたそうだよ。
まわりは知らない人たちばかりで、
いつ帰れるかわからないし、不安で
眠れなかったんだって
それにね。
友達に会えなくてさみしかったって聞きました」

*「不便」というのは、これまでの自由で便利な生活が
できなくなっって、思い通りにいかないことだよ。

抜く



「わたしが聞いたのは、停電になって、
電気がつかなくなったり、
スマホの充電が出来なかったり、
水道の水が出なくなったり、
トイレも使えなかったんだって。
それに、放射線が心配で、
外に出ないように言われたから、
お兄ちゃんたちは外で遊べなかったんだって」

抜く



「スーパーやコンビニから水や食料も
すぐになくなって、何を買うにも
長い行列に並ばなきゃいけなかったそうだよ。
普通に買い物が出来るようになるまで
しばらく時間がかかったって言った」

森のみんなは、いろいろな話を
聞いてきたようでした。

抜く



「いろんなことがあったんだね！」

「本当に大変だったんだね、全然知らなかったよ！」

「海の近くにいたら、大きな地震のすぐあとには
津波がくるかもしれないよ。」

「前もって避難する場所を確認することが大切だね。」

「いざという時のために、
水や食料を日頃から準備しておいた方がいいよね。」

「周りの人からもっと話をききたいね。
みんなのところはどうだった？」

※ここで読み手の体験談をお話してください・・・

「みんなのところでもいろいろなお話が
あったんじゃないの。
わしもそのときのことばよく覚えてる。
みんな大変な中で、頑張ってきたんじゃないよ」



※実体験があれば話せる
範囲で、実体験がなくとも
当時のニュースやその後に
聞いた話などから。

例「2011年
3月11日に、
先生は(私は…)
〇〇にいてね…」
など1トピックス程度



①線まで抜く



「大きな地震のことについていろいろ聞けたのう。
 大きな地震と大きな津波のことを
 「大震災」と言うんじゃ。」

②全部抜く

この大震災のせいで、

原子力発電所の事故が起こったんじゃよ。」



「はいっ！初めて聞いた話や、
 いろいろ大変だったことを知らなかったから、
 すごくびっくりしたけど、勉強になりました。
 知らない友達もたくさんいるから、
 みんなに話したいです！」

抜く

※事故についての
 紙芝居は、
 「なにかおきたの
 ほつしやせん」を
 ご使用ください。



「そうじゃな。震災について聞いたり、
伝えていくことはとても大切なことなんじゃよ。
地震や事故、放射線の被害を受けた場所や人も、
だんだん元の生活に戻っているんじゃ。
福島の震災を伝えていくには、
放射線のことを知ることは大事だから、
これからも学んでいこう！」

と、ふくろう先生は力強く言いました。
おしまい